

前田道路の浅草寺境内改修プロジェクト

前田道路は、東京・浅草の浅草寺の参拝者の回遊性の向上と景観調和を目指し、デザインビルド（設計施工）で参道を中心としたオープンスペースの整備に取り組んでいる。営業本部設計部設計課の牧大次郎課長が「景観を含めた環境デザインを設計できる組織があることは当社の強み」と力を込めるように、舗装工事にとどまらず、景観工事でも存在感を発揮する。さらに、環境配慮型製品の採用や観光客が多い現場ならではの工夫により、日本の観光名所を足元から彩る。

同社は2012年から24年までに4回、浅草寺参道の舗装を整備してきた。一般のアスファルト舗装だった参道には、景観やバリアフリーに配慮し、石畳風の半たわみ性舗装「御影石風ベアコート」を採用した。保水機能のあるものを使えば、打ち水などにより水を含むと路面温度が下がり、環境に優しい。低炭素素材を採り入れ、CO₂排出量削減も実現している。



工夫を凝らした舗装は
観光客に快適さをもたらす

特殊舗装が足元から彩る



広場には環境に優しい人工芝を採用して本堂の赤色が映える地面を演出した。ベンチも寄贈しており、浅草寺を訪れる人々の憩いの場となっている。

現在、既存の新奥山エリアと花壇エリアを本堂前の広場につなげる「本堂西側舗装改修工事」を進める。改修により境内の混雑が解消されるほか、広場として行事に使えるようになる。景観の改善にも寄与。一部には蓄光石舗装を採り入れ、幻想的な空間を演出する。

現場には海外からの観光客も多く、囲いに掲示した工事の概要には英訳を付けた。完成予想パースも貼り、工事後の姿を分かりやすく示す。

現場代理人を務める藤村博美氏は、浅草寺の全ての工事に携わってきた。多くの観光客や参拝者が訪れる中での施工に当たっては「安全第一を徹底し、騒音などにも配慮している」と話す。シンボリックな場所での工事の醍醐味（だいごみ）にも言及し、「普段は施工できない舗装に触れることができ、やりがいがある。舗装が後世に残ることの魅力の一つだ」と語る。

